

はじめに

平素より地域の感染症対策に御協力いただきありがとうございます。

2026年4月から、印旛保健所管内の感染症情報（いんばっと感染症情報）を毎月1回（原則第4金曜日に）掲載します。トピックスや管内の感染症の流行情報、予防や対策など幅広い情報をお届けします。

トピックス1

《麻しん（はしか）》

2026年第15週に県内医療機関から3例の届出があり、県内の累計は23例となりました。2017年以降では最も早いペースで患者数が増加しています。他県では集団感染も報告されています。

図1: 2017年から2026年第15週までの県内の診断年別麻しん累積届出数

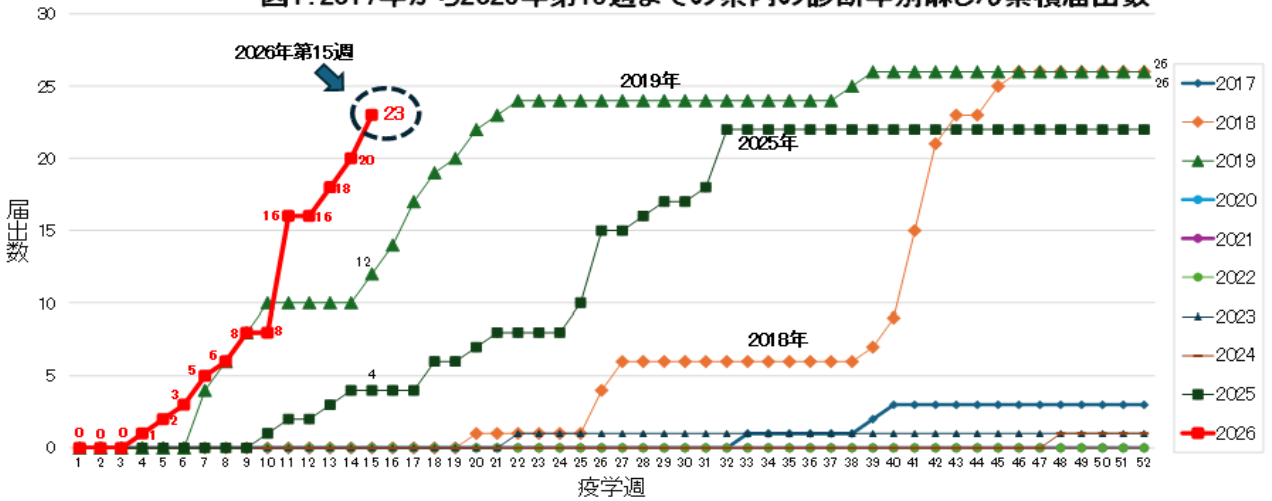


図2: 2019年から2026年までの全国の麻しん累積届出数の推移 (2026年第14週時点)

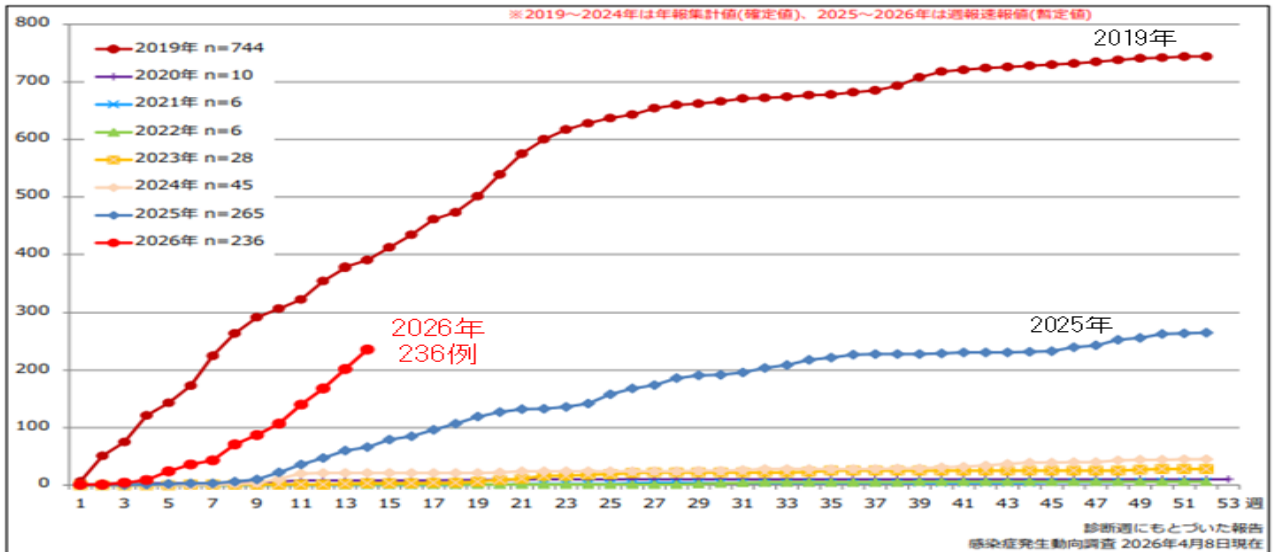


図2は国立健康危機管理研究機構の公表資料¹⁾から転載

■麻しん（はしか）って どんな病気？

主な症状は、**発熱、発疹、鼻水、目の充血**などです。肺炎や脳炎などを起こすこともあります。特効薬はなく、先進国であっても1000人に1人が亡くなると言われています。



■予防はワクチン2回接種

麻しんウイルスそのものが空間を漂い、それを吸い込むことで感染することがあります（空気感染）。

市販の不織布マスクだけで空気感染を完全に防ぐことは困難です。

ワクチンを2回受けて免疫をつけておくことが最も確実な予防方法です。

まずは母子健康手帳で接種記録を確認してみましょう。

ワクチン接種を希望する場合は、かかりつけ医に御相談ください。



■心配な症状があるときは医療機関へ事前に連絡を

麻しんは非常に感染力が強いため、待合室などで周りの人にうつしてしまうこともあります。発熱や発疹など、心配な症状がある場合は、**事前に連絡し、医療機関の指示に従って受診してください**。受診するときは、できるだけ公共交通機関（電車やバスなど）の利用を避けてください。

麻しん患者が、周囲に感染させる可能性のある期間内に不特定多数の人と接触した可能性がある場合、下記ホームページで公開しています。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/press/2026/260410measles.html>

医療機関の方へ

1 麻しんを疑う場合の診療

- 発熱や発しんのある患者を診察する際は、麻しんの可能性を念頭に置き、診療の順番を最後に回す等、空間を共有しない診療体制を整えましょう。
- 海外渡航歴や国内旅行歴、麻しん罹患歴、予防接種歴を確認してください。
- 麻しんを疑った時点で、感染症法第12条に基づき、臨床診断例として直ちに保健所に届け出を行ってください。

2 検査・検体提出

- 血清IgM抗体検査などによる血清抗体価の測定を行うとともに、必要に応じて地方衛生研究所等でウイルス学的検査を実施していますので、保健所へ下記の検体を提出してください。

優先順位 ^①	検体の種類 ^②	採取量 ^③	採取容器 ^④
①	血液	2～5 ml	密封できる EDTA またはクエン酸入り試験管 ^⑤ 血算用スピッツは通常、EDTA 入り。 ^⑥ ヘパリンは PCR 反応を阻害するので不可 ^⑦
②	咽頭ぬぐい液	滅菌綿棒 1 本	密封できる滅菌スピッツ ^⑧ サーベイランス用保存液入りスピッツ管も可。 ^⑨
③	尿	10～20 ml	密封できる滅菌スピッツ ^⑩

3 院内感染予防と医療従事者の予防接種

図 院内ポスター例

- 医療従事者が麻しん含有ワクチンを2回以上接種していることを確認しましょう。
- 麻しんは感染力が非常に強いため、院内感染予防対策を徹底してください。

海外旅行へ行かれる方へ

1 渡航前の注意事項

- 渡航先の麻しん流行状況をウェブサイト等で確認してください。
- 母子手帳などで予防接種歴、罹患歴を確認し、記録がなければ渡航前に予防接種を受けることを検討してください。
- 罹患歴や接種歴が不明な場合は、抗体検査を受けることを検討してください。

2 渡航後・帰国後の注意事項

- 麻しん流行地域から帰国後2週間程度は健康状態に注意し、発熱や咳嗽、鼻水、眼の充血、全身の発しん等の症状が現れた場合は医療機関を受診してください。
- 受診時は、渡航先や麻しんの可能性について医療機関に事前に伝えてください。
- 受診の際は、医療機関の指示に従い、可能な限り公共交通機関を利用せずに受診してください。

揭示例

ご来院の皆さまへ

印旛保健所管内では麻しんの患者が発生しています。麻疹は感染力が非常に高い感染症です。感染の拡大を防ぐために、麻しんが疑われる場合は、院内に入らず、事前に病院へ電話連絡をしてください。

電話番号：●●●-●●●-●●●●

【麻しんが疑われる場合】

- 37.5度以上の発熱がある
- 風邪症状（咳、鼻水）がある
- 発疹
- 3週間以内に麻しん患者との接触歴や海外渡航歴など感染源となる行動歴がある

〇〇クリニック

ゴールデンウィークに渡航される皆さまへ

《海外旅行時は感染症に注意しましょう！》

海外においては、国内では見られない感染症が流行していることがあり、海外滞在中に感染する可能性があります。海外で感染症にかからないようにするために、感染症に関する正しい知識と予防方法を身に付けましょう。

計画前

- ◎ これまでに受けた予防接種歴を母子手帳で確認しましょう。
- ◎ 渡航先で推奨されている予防接種をまだ受けていない場合は早めに医師に相談して受けるようにしましょう。
- ◎ 渡航先の感染症流行状況を確認しましょう。

旅行中

食べ物や水を介して感染する感染症は、A型肝炎や腸チフス等があります。食事は十分に火が通っているものを食べましょう。また、生水・氷・生の魚介類・カットフルーツの飲食は避けましょう。

蚊やダニを介した感染症はマラリア・デング熱・ダニ媒介脳炎・重症熱性血小板減少症候群（SFTS）等があります。長袖の服等を着用し肌の露出を避け、虫よけスプレーを使用するといった対策をしましょう。

動物を介した感染症は狂犬病や鳥インフルエンザなどのウイルスなどがあります。現地の動物は重篤な感染症の原因となる病原体を持っている可能性があります。また、中東諸国へ旅行し、ヒトコブラクダとの接触があった場合は、中東呼吸器症候群（MERS）にご注意ください。現地では、むやみに動物に近づかず、触れないようにしましょう。

人から人に感染する感染症として、麻しんや風しん等があります。咳や発熱、発疹等の症状がある方との濃厚な接触は避けるようにしましょう。また、感染対策の基本である手洗い・手指消毒を心がけましょう。

帰国後

帰国時

空港や港の検疫所で健康相談ができます。

発熱、咳、発疹、下痢などの症状がある場合や、動物にかまれた、蚊に刺されたなど健康が心配なことがあれば、検疫官に相談しましょう。

帰宅後

感染症の潜伏期間は数日から1週間以上の場合もあります。

帰国後に具合が悪くなったら、医療機関を受診し、渡航先や滞在期間、現地での飲食や活動内容、動物との接触、ワクチン接種歴を伝えてください。

インフルエンザ感染症

～定点医療機関における感染者数の報告は減少傾向です～

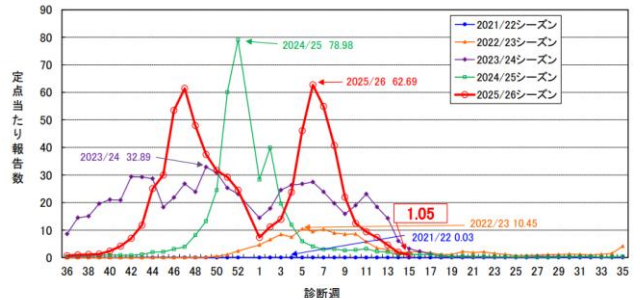
◆印旛保健所管内インフルエンザ情報◆ 2026年 第15週 4月6日 ～

○インフルエンザ 過去10年との比較（印旛保健所管内22定点医療機関からの報告）



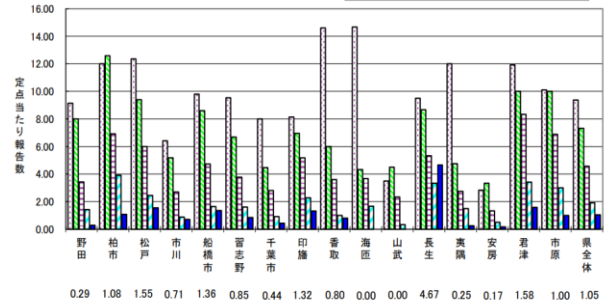
○インフルエンザ臨時休業の状況 第15週：2025/2026シーズン*
2026年第15週は報告ありませんでした。

千葉県流行シーズン別インフルエンザ定点あたり報告数



直近5週間の保健所別インフルエンザ定点あたり報告数

インフルエンザ



感染対策

- ①手洗い・手指衛生
- ②マスクの着用・咳エチケット
- ③室内の換気
- ④室内の湿度の保持
- ⑤人ごみを避ける
- ⑥ワクチン接種

新型コロナウイルス感染症

～定点医療機関における感染者数の報告は減少傾向です～

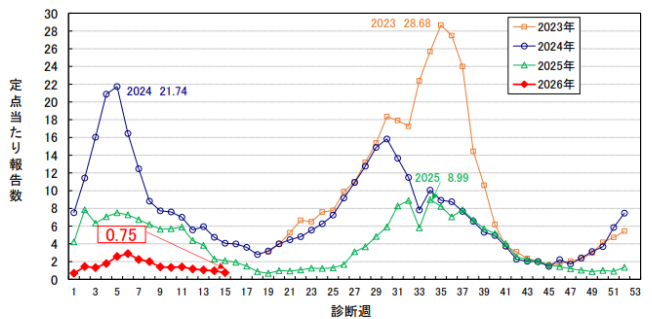
◆印旛保健所管内新型コロナウイルス情報◆ 2026年 第15週 4月6日 ～ 4月12日

●新型コロナウイルス定点報告数（印旛保健所管内22定点医療機関からの報告）



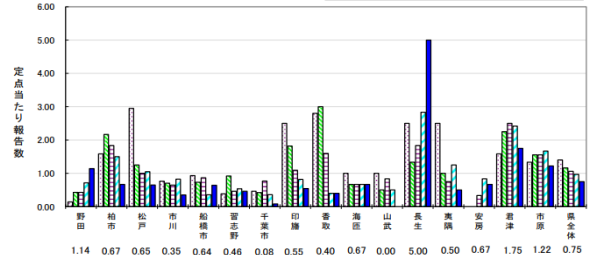
●新型コロナウイルス臨時休業の状況 第15週：2026年第1週～
2026年第15週はありませんでした。

千葉県の年別新型コロナウイルス感染症定点あたり報告数



直近5週間の保健所別新型コロナウイルス感染症の定点あたり報告数

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）



第15週の千葉県全体の定点あたり報告数は0.75（人）でした。印旛保健所管内の報告数は、4週連続減少し、0.55（人）となっています。高齢者施設や医療機関での集団発生例も減少しています。下記に新型コロナウイルス感染症の発生状況を掲載しています。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202615covid19.pdf>

管内における感染症発生状況について、主に千葉県感染症情報センターの情報を基に作成しています。